

44 番の歌 謙遜な人の祈り

エホバは全ての人に悔い改めてほしいと思っている

「エホバは.....一人も滅ぼされることなく，全ての人が悔い改めることを望んでいる」。

ペテロ第二 3:9 エホバ(*)は約束を果たすのが遅いと考える人もいますが，そうではありません。神は，一人も滅ぼされることなく，全ての人が悔い改めることを望んでいるので，皆さんことを辛抱しているのです。

ポイント：①悔い改めるとはどういうことか，②どうしてそうする必要があるか，そして，③人々が悔い改めるようエホバがどのように助けてきたかを学びます。

1. 悔い改めにはどんなことが関係していますか。

悪いことをしたなら，悔い改めることが大切です。聖書の中で，悔い改めるとは，自分のした悪いことについて後悔し，その行いをやめ，二度と繰り返さないよう決意することを意味しています。（用語集の「悔い改め」聖書の中では，以前の生き方や間違った行動，または行うべきことをしなかったことを心から悔いて，考えを改めることを意味する。真の悔い改めには，生き方や行動の変化が伴う。（マタ 3:8 では，悔い改めていることを示す行動を取りなさい。使徒 3:19 ですから，罪を消し去っていただくためにq，悔い改めでr生き方を変えなさいs。そうすれば，爽やかにする時期がエホバから来て。ペニ 3:9 エホバ*は約束を果たすのが遅いと考える人もいますが，そうではありませんi。神は，一人も滅ぼされることなく，全ての人が悔い改めることを望んでいるので，皆さんことを辛抱しているのですj）」を参照。）

2. 私たち全てが悔い改めについて学ぶ必要があるのはどうしてですか。（ネヘミヤ 8:9-11）

2 全ての人は悔い改めについて学ぶ必要があります。誰でも毎日罪を犯すからです。私たちはアダムとエバから罪と死を受け継いでいます。（ロマ 3:23 全ての人は罪人になったので，神の榮光に達することができません。5:12 このような訳で，1人の人によって人類に罪が入り，罪によって死が入り，こうして，全ての人が罪人になったために，死が全ての人に広がったように—）例外はありません。使徒パウロのように強い信仰を持っていた人であっても，罪と闘うのは簡単ではありませんでした。（ロマ 7:21-24 私には次の法則が当てはまります。正しいことをしたいと願うのに，自分の中に悪がある，ということです。22 私は，内面では(*内面の人としては)神の律法を本当に喜んでいます。23 しかし，体の中で別の律法が，考え方を導く律法と戦い，私を捕らえて体の中にある罪の律法に従わせているのが分かります。24 私は実に惨めな人間です！こうして死につつある体から，誰が私を救ってくれるでしょうか）では，私たちは自分の罪のためにずっと惨めな気持ちでいなければならぬのでしょうか。いいえ。エホバは憐れみ深い方で，私たちに幸せでいてほしいと思っています。ネヘミヤの時代のユダヤ人の例を考えましょう。（ネヘミヤ 8:9-11）

総督(*ティルシャタ/c ペルシャの称号で州の総督を指す)ネヘミヤ，写字生(*書記)である祭司エズラ，民を教えていたレビ族たちは民に言った。「今日はエホバ神にとって聖なる日です。嘆き悲しんだり，泣いたりしてはいけません」。民は皆，律法の言葉を聞いて，泣いていたのである。10 ネヘミヤは民に言った。「行って，最上の(d*肥えた)ものを食べ，甘いぶどう酒を飲み，何も用意していない人には食べ物を分けてあげなさい。今日は私たちの主にとって聖なる日だからです。悲しんではいけません。エホバからの喜びは皆さんの力(d*とりで)となるのです」。11 レビ族たちも，「泣くのをやめなさい。今日は聖なる日です。悲しんではいけません」と言って，民を落ち着かせたを読

む。）エホバは、人々が過去の罪によって打ちのめされてしまうのではなく、喜んでご自分に仕えることを願っていました。エホバは悔い改めることが幸せにつながることを知っています。それで、悔い改めについて私たちに教えてくれています。自分の罪を悔い改めるなら、憐れみ深いお父さんエホバは必ず許してくださいます。

3. この記事ではどんなことを考えますか。

3 悔い改めについてさらに学びましょう。この記事では3つの点を考えます。「まず、①エホバがイスラエル人に悔い改めについてどんなことを教えたかを学びます。次に、②罪を犯した人が悔い改めるよう、エホバがどのように助けたかに注目します。最後に、③イエスの弟子たちが悔い改めについてどんなことを学んだか」を考えます。

エホバは悔い改めについてイスラエル人にどんなことを教えたか

4. エホバは悔い改めについて、イスラエル国民にどんなことを教えましたか。

4 エホバはイスラエル人を1つの国民として組織した時、契約を結びました。イスラエル人は律法に従う限り、繁栄し、エホバに守ってもらうことができました。律法に従うことについて、エホバはこう言いました。「私が今日命じるこのおきては、あなたにとって難し過ぎるものでも、遠くにあるものでもありません」。（申 30:11 私が今日命じるこのおきては、あなたにとって難し過ぎるものでも、遠くにあるものでもありません、16 あなたが、私が今日命じるあなたの神エホバのおきてを聞くなら、あなたの神エホバを愛し、神の道を歩み、神のおきてと法令と法規を守るなら、あなたは生きて数が多くなり、エホバ神は、あなたが行って所有する土地で祝福してくださいます）もしイスラエル人がほかの神々を崇拜したりしてエホバに反逆するなら、エホバに守ってもらうことはできず、苦しむことになりました。でも、たとえそうなったとしても、エホバの好意を再び得ることは可能でした。自分たちの「神エホバのもとに帰り、……神の言うことを聞く」ことができたのです。（申 30:1-3 私があなたの前に置いた祝福と災い、これらの言葉通りのことがあなたに起きる時、エホバ神があなたを離散させた全ての国民の間で、あなたがそれらの言葉を思い出し、2 あなたの神エホバのもとに帰り、あなたもあなたの子も、全て私が今日命じる通りに、心を尽くし自分の全てを尽くして神の言うことを聞くなら、3 あなたの神エホバは、捕らわれているあなたを連れ戻し、あなたに憐れみを示し、エホバ神があなたを散らした全ての民の中から再びあなたを集めてくださいます、17-20 しかし、あなたの心が離れ、あなたが聞かず、誘われて他の神々にひれ伏して仕えるなら、18 今日はつきり言っておきますが、皆さんには必ず滅びます。ヨルダン川を渡っていって所有する土地で長く生きることはできません。19 私は今日、天と地を証人にして、あなたの前に、命と死、祝福と災いを置きました。あなたは生きるために、命を選ばなければなりません。あなたもあなたの子孫もです。20 すなわち、あなたの神エホバを愛し、神の言うことを聞き、神にしっかりと付くのです。エホバはあなたに命を与え、父祖たち、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓った土地で長く生きていけるようにしてくださいます）つまり、悔い改めるチャンスがありました。悔い改めるなら、もう一度エホバとの絆を強め、守ってもらうことができました。

5. エホバが民を見捨てたわけではなかったことはどんな点から分かりますか。（列王第二 17:13, 14）

5 エホバに選ばれたイスラエル国民は、何度もエホバに反逆しました。偶像崇拜だけでなく、とても悪いことをいろいろ行い、結果としてつらい経験をしました。でも、エホバは不従順なご自分の民を見捨てませんでした。何度も預言者を遣わし、悔い改めてご自分のもとに戻ってくるよう勧めました。（列王第二 17:13, 14 エホバは預言者や幻を伝える人たち皆を通して、イスラエルとユダにこ

う警告し続けた。「悪い行いをやめなさい！ 私があなたたちの父祖に命じ、私に仕える預言者を通してあなたたちに伝えた律法全てに従って、私のおきてと法令を守りなさい」。14 それなのに彼らは聞かず、エホバ神に信仰を示さなかつた父祖たちと同じようにずっと頑固だった(d*うなじを固くした)を読む。)

6. エホバは預言者たちによって、悔い改めることの大切さをどのように教えましたか。（挿絵も参照。）

6 エホバは預言者たちによって警告を与え、イスラエル人を正そうとしました。例えば、エレミヤを通してこう言いました。「背信のイスラエルよ、戻りなさい……。私は怒ってあなたたちを見下げることはしない。搖るぎない愛を抱いているからである……。私はいつまでも憤慨することはない。ただ、自分の罪を認めなさい。あなたは、あなたの神エホバに背いたのである」。（エレ 3:12, 13 行って、北に次の言葉を伝えなさい。『「背信のイスラエルよ、戻りなさい』と、エホバは言う』。『「私は怒ってあなたたちを見下げることはしない。搖るぎない愛を抱いているからである」と、エホバは宣言する』。『「私はいつまでも憤慨することはない。13 ただ、自分の罪を認めなさい。あなたは、あなたの神エホバに背いたのである。全ての生い茂った木の下でよそ者たち(*外国の神々)に好意を振りまき、私の声に従わなかった」と、エホバは宣言する』）また、ヨエルを通して、「心を尽くして私のもとに戻れ」と言いました。（ヨエ 2:12, 13 エホバは宣言する。「今からでも、心を尽くして私のもとに戻れ。断食し、涙を流し、泣き叫んで。13 衣服ではなく心を引き裂き、あなたの神エホバのもとに戻れ。神は思いやり(*慈しみ)があって、憐れみ深く、すぐに怒らず、搖るぎない愛に満ちている。神は災いについて考え直す(*悔やむ)さらに、イザヤにこう伝えさせました。「自分を清めなさい。もう私の前で悪いことをしてはならない。悪を行うのをやめなさい」。（イザ 1:16-19 体を洗い、自分を清めなさい。もう私の前で悪いことをしてはならない。悪を行うのをやめなさい。17 善を行うことを学び、公正に裁き、虐げる人を正し、父親のいない子供(*孤児)の権利を守り、やもめの言い分を弁護しなさい」。18 エホバはこう言う。「来なさい。私たちの間で物事を正そう。あなたの罪は緋(*赤)のようだが、雪のように白くされる。紅の布のように赤いが、羊毛のようになる。19 あなたたちは、進んで従う(*聞く)なら、この土地の良い物を食べることになる）エゼキエルにはこう言うよう指示しました。「私は、悪い人の死を少しでも喜ぶだろうか。かえって、その人が悪い行いをやめて生き続けることを喜ぶのではないか。……私は誰の死をも喜ばない。悔い改めて生き続けなさい」。（エゼ 18:23 主権者である主エホバはこう宣言する。『私は、悪い人の死を少しでも喜ぶだろうか。かえって、その人が悪い行いをやめて生き続けることを喜ぶのではないか』、32『私は誰の死をも喜ばない。悔い改めて生き続けなさい』と、主権者である主エホバは宣言する）人々が自分の罪を悔い改めるのを見る時、エホバは本当に喜びます。いつまでも生き続けてほしいと願っているからです。エホバは罪を犯した人が悔い改めるまで何もせずにただ待っているということはありません。そのことが分かるほかの例も考えましょう。



エホバは何度も預言者を遣わして強情な民に悔い改めるよう訴え掛けた。（6-7節を参照。）

7. ホセアとゴメルの実例を通して、エホバは民にどんなことを教えましたか。

7 エホバは、悔い改めるよう助けたいと思っていることを、実例を使って教えました。預言者ホセアの妻ゴメルのことを考えてみましょう。ゴメルは姦淫を犯し、ホセアを捨ててほかの男性のもとに行ってしまいました。ゴメルはもう救いようがなかったでしょうか。心の中をご覧になるエホバは、ホセアにこう言いました。「別の男に愛され、姦淫をしているその女を、もう一度愛しなさい。ほかの神々に頼[って]いるイスラエルの民を、エホバは同じように愛する」。(ホセア3:1) エホバは私に言った。「別の男に愛され、姦淫をしているその女を、もう一度愛しなさい。ほかの神々に頼り、千しふどうの菓子(c*偽りの崇拜に使われた)を好んでいるイスラエルの民を、エホバは同じように愛する」。格16:2 人には自分の道はどれも正しく思えるが、エホバは動機を調べる) この時ホセアの妻はまだ重大な罪を犯していた、ということに注目できます。それでもエホバはホセアに、ゴメルのもとに行って許し、和解するようにと言いました。*これは特殊な事例です。現代、エホバは夫婦のどちらかが姦淫をした場合、婚姻関係を続けることを潔白な側に求めてはいません。エホバの導きを受けてイエスは、潔白な側が望むなら離婚できると説明しました。(マタ 5:32) しかし私は言います。誰でも性的不道徳以外の理由で妻を離婚するなら、妻は姦淫することになります。離婚された女性と結婚する人は姦淫することになります 19:9 あなた方に言いますが、性的不道徳以外の理由で妻を離婚して別の女性と結婚する人は、姦淫することになります) 同じように、エホバは強情だった民のことを諦めませんでした。民は相変わらずひどい罪を犯していましたが、エホバは民を愛し、悔い改めて生き方を変えるよう引き続き救いの手を差し伸べました。この例からすると、「心を調べる方」であるエホバは、今も重大な罪を犯している人に手を差し伸べて、悔い改めるよう助けるのでしょうか。(格 17:3 るつばは銀のため、炉は金のため、エホバは心を調べる方である) 考えてみましょう。

エホバは罪を犯した人が悔い改めるようどのように助けるか

8. エホバはカインが悔い改めるようにどのように助けましたか。 (創世記 4:3-7) (挿絵も参照。)

8 カインはアダムとエバの長男でした。罪を犯す傾向を2人から受け継いでいました。また、聖書にはカインについて「行いが悪[かった]」と書かれています。(ヨハ一 3:12) カインのようであってはなりません。カインは邪惡な者(c*サタンのこと)から出て、弟を殺しました。なぜ殺したのでしょうか。自分の行いが悪く、弟の行いが正しかったからです) 恐らくそのために、エホバは「カインとその捧げ物[を]好意的には見なかった」のでしょうか。カインは自分の考えや行動を改めるのではなく、「激しく怒り、ふさぎ込」んでしまいました。エホバはどうしたでしょうか。ご自分の方からカインに話し掛けました。(創世記 4:3-7) しばらく後のこと、カインは土地から得た産物の幾らかを、エホバに捧げるために持ってきた。一方、アベルは羊の初子の何匹かを脂肪部分を含めて持ってきた。エホバはアベルとその捧げ物を好意的に見たが、5 カインとその捧げ物は好意的には見なかった。するとカインは激しく怒り、ふさぎ込んだ。6 それでエホバはカインに言った。「どうしてそんなに怒って、ふさぎ込んでいるのか。7 善いことを行うようになれば、好意を得られるのではないか。しかし、善いことを行うようにならなければ、戸口で待ち構えている罪があなたを捕らえようとする。あなたはそれを押しとどめるだろうか」を読む。) エホバはカインに優しく声を掛け、善いことを行うならどうなるかを考えさせ、怒りが罪につながることについて警告を与えました。残念ながら、カインはエホバの言うことを聞きませんでした。エホバが悔い改めるように助けてくださったのに、それを拒んだのです。エホバはカインがそのような反応を示したからといって、その後罪を犯したほかの人たちを助けることもやめてしまったでしょうか。そんなことはありません。



エホバはカインに優しく声を掛け、善いことを行うならどうなるかを考えさせ、

怒りが罪につながることについて警告を与えた。（8節を参照。）

9. エホバはダビデが悔い改めるようどのように助けましたか。

9 エホバはダビデを深く愛していました。ダビデのことをご自分の「心にかなう人」と言いました。（使徒 13:22 次いで、サウルを退けた後、ダビデを王として立て、こう宣言しました。『私は、心にかなう人、エッサイの子ダビデを見つけた。彼は私の望むことを全て行う』）でもダビデは姦淫や殺人など非常に重い罪を犯しました。モーセの律法下では死に値するほどの罪でした。（レビ 20:10 次は、人の妻と姦淫をする男性についてである。男性が仲間の妻と姦淫をするなら、姦淫をした男性も女性も、必ず死刑にされるべきである。民 35:31 死に値する殺人者の命のための贖いを受け取ってはならない。その者は必ず死刑にされるべきだからである）それでもエホバは、ダビデが悔い改めることができるように預言者ナタンを遣わしました。* 「ものの塔」2012年11月15日号の「エホバの許しはあなたにとって何を意味しますか」という記事の21-23ページ3-10節を参照。まだダビデに悔い改めている様子が全く見られなかった時にそうしました。どんな結果になったでしょうか。ダビデはナタンが話した例えを聞いて心を動かされ、悔い改めました。（サム二 12:1-14 それでエホバはナタンをダビデの所に遣わした。ナタンはダビデの所に来て言った。「ある町に2人の男性がいました。1人は裕福な人、もう1人は貧しい人でした。2裕福な人は非常に多くの羊や牛を持っていました。3しかし貧しい人には、自分で買った小さな雌の子羊が1匹いるだけで、ほかには何もいませんでした。その人はその子羊を世話し、子羊はその人の家族と一緒に成長していきました。その人は、少ない食べ物の中から子羊に食べさせ、自分の器から飲ませ、腕の中で寝かせました。子羊は娘のようになりました。4ある時、1人の旅人が裕福な人の所にやって来ました。ところが裕福な人は、その旅のために自分の羊や牛を振る舞おうとはせず、貧しい人の雌の子羊を取って、それを振る舞いました」。5するとダビデはその人に非常な怒りを感じ、ナタンに言った。「生きている神エホバに懸けて言います。そんな男は死に値します！6その男は4匹の子羊で償うべきです。相手の気持ちも考えずにそんなことをしたからです」。7そこでナタンはダビデに言った。「その人はあなたのことです！イスラエルの神エホバはこう言っています。『私はあなたを選んで(d*に油を注いで)イスラエルの王とし、あなたをサウルから助け出した。8あなたの主人の家のものと妻たちを喜んで与え、イスラエルとユダの民を与えた。もしそれでも足りなければ、もっと与えるつもりだった。9どうして私エホバにとって悪いことを行って、私の言葉を軽く見たのか。あなたはヘト人ウリヤを剣で討った！彼をアンモン人の剣で殺してから、彼の妻を自分の妻にした。10今後、あなたの家族は常に剣に悩まされる。あなたがヘト人ウリヤの妻を自分の妻にし、私を悔ったからだ』。11エホバはこう言っています。『私はあなたへの災いをあなたの家族の中から生じさせる。あなたの目の前で妻たちを取り上げて別の人(*あなたの仲間)に与える。その人は白昼堂々(d*太陽の目に向かって)あなたの妻たちと寝る。12あなたはひそかに行つたが、私はイスラエル全体の前で堂々と(d*太陽の前で)このことを行う』」。13ダビデはナタンに言った。「私はエホバに対して罪を犯しました」。ナタンはダビデに言った。「エホバはあなたの罪をお許しになります。あなたは死ぬことはありません。14しかし、あなたはエホバに対して非常に不敬なことをしたので、生まれたばかりのあなたの子は必ず死にます」）そして、後悔の気持ちが表れた感動的な詩を書きました。（詩 51、表題指揮者へ。ダビデの歌。ダビデがバテ・シバと関係を持った後、預言者ナタ

ンがダビデのもとに来た時。 51 神よ、 あなたの揺るぎない愛に従って親切を示してください。 深い憐れみに従って私の違反を消し去ってください。 2 私の過ちをことごとく洗い去り、 私を罪から清めてください。 3 私は自分の違反をよく知っています。 私の罪はいつも私の前にあります(*頭から離れません)。 4 あなたに、 ほかでもなくあなたに対して(d*あなただけに)罪を犯しました。 あなたから見て悪いことを行いました。 それで、 あなたが話す事は正しく、 あなたの裁きはもっともです。 5 私は過ちのある者として生まれ、 母は罪のうちに私を身ごもりました(*母が私を身ごもった時から罪深い人間です)。 6 あなたは内面の真実さを喜びます。 私が心の奥底で真の知恵を理解できるようにしてください。 7 ヒソップで私を罪から清めてください、 私が清くなるように。 私を洗ってください、 雪よりも白くなるように。 8 喜びと歓喜の音を私に聞かせてください。 打ちのめされた私(d*あなたに碎かれた骨)が喜べるようになります。 9 私の罪から顔を背け(*隠し)、 全ての過ちを拭い去ってください。 10 神よ、 私の内に清い心をつくってください。 新たな精神、 揺らぐことがない精神を持たせてください。 11 あなたの前から私を追い払わないでください。 聖なる力(*)を私から取り去らないでください。 12 あなたによる救いの喜びを再び味わわせてください。 あなたに進んで従う気持ちを私の内に呼び起こしてください。 13 私は違反を犯す人にあなたの道を教えます。 罪人があなたのものとに帰るために。 14 私を流血の罪から救ってください。 神、 私の救いの神よ。 私が喜びにあふれてあなたの正しさを知らせるために。 15 エホバ、 私の唇を開いてください。 口であなたを賛美するために。 16 あなたは犠牲を望みません。 もし望むのなら、 私は捧げたでしょう。 あなたは全焼の捧げ物を喜びません。 17 神に喜ばれる犠牲は、 悔いる気持ち。 後悔し、 打ちのめされた心を、 神よ、 あなたは退け(*見下す)ません。 18 憐れみを掛け(*善意を示し)、 シオンに善いことを行ってください。 エルサレムの城壁を築いてください。 19 その時、 あなたは正しく捧げられる犠牲を喜びます。 全焼の犠牲と焼き尽くす捧げ物を喜びます。 その時、 あなたの祭壇に雄牛が捧げられます) この詩編はこれまで、 罪を犯した多くの人を慰め、 悔い改めるように心を動かしてきました。 ダビデが悔い改められるようエホバが愛情深く助けたことを考えると、 うれしく思うのではないでしょうか。

10. エホバが罪を負った人類を辛抱強く許してくださいることについてどう感じますか。

10 エホバは罪を憎んでいて、 どんな罪も大目に見ることはありません。 (詩 5:4, 5 あなたは悪を喜ぶ神ではない。 悪い人はあなたのものとにとどまれない。 5 高慢な人はあなたの前に立てない。 あなたは悪事を働く人全てを憎む) でも私たちを愛しているので、 罪を犯してしまう私たちのことを助けてくれます。 どんなに重い罪を犯した人であっても、 悔い改めてご自分との絆を持つよう助けたいといつも思っています。 そのことを考えると本当に安心できます。 エホバが辛抱強く許してくださいることについて思い巡らすと、 ①これからもエホバに忠実に仕えたい、 ②罪を犯したならすぐに悔い改めるようにしたい」と感じるでしょう。 では次に、 弟子たちが悔い改めについてイエスからどんなことを学んだのか考えてみましょう。

イエスの弟子たちは悔い改めについてどんなことを学んだか

11-12. イエスは、 お父さんエホバが進んで許してくださいることをどのように教えましたか。 (挿絵も参照。)

11 メシアが登場するのに先立って、 エホバはバプテスマを施す人ヨハネを通して、 悔い改めることの大切さを人々に教えました。 メシアであるイエスも宣教で同じ点を強調しました。 (マタ 3:1, 2さて、 バプテストのヨハネがユダヤの荒野に来て伝道し、 2 こう言った。 「悔い改めなさい。 天の王国は近づいたからです; 4:17 その時から、 イエスは伝道を開始して、「悔い改めなさい。 天の王国は近づいたからです」と言い始めた)

12 イエスは宣教期間中ずっと、天のお父さんエホバが進んで許してくださる方であることを教えました。そのことを際立たせるために、いなくなっていた息子の例え話をしました。その若者は罪深い生き方を選び、しばらくの間それを続けました。でも「本心に立ち返[り]」、家に戻ります。父親はどう反応したでしょうか。その若者が「まだ遠くにいる間に、父親は息子を見てかわいそうに思い、走っていって抱き締め、優しく口づけしました」。この息子は父親の家の召し使いとして働かせてもらえるか聞くつもりでしたが、父親は「私のこの息子」と呼んで、再び家族に迎え入れました。父親はその息子について「いなくなっていたのに見つかったのだ」と言いました。（ルカ 15:11-32）それからイエスは言った。「ある男性に2人の息子がいました。12 下の息子が父親に言いました。『お父さん、財産のうち私が頂くことになる分を下さい』。それで父親は資産を2人に分けました。13 数日後、下の息子は全ての物をまとめて遠い国に旅立ち、そこで好き放題の生活をして財産を乱費しました。14 全てを使い果たした時、その国中でひどい飢饉が起き、彼は困窮し始めました。15 その国のある住民の所に転がり込むことまでし、野原で豚を飼う仕事をさせられました。16 豚が食べているイナゴマメのさやでおなかを満たしたいと思うほどでしたが、誰も何もくれませんでした。17 その息子は本心に立ち返った時、言いました。『父の所では大勢の雇われ人に有り余るほどパンがあるのに、私はここで飢え死にしそうだ。18 ここを出て父のもとに行き、こう言おう。『お父さん、私は天に対しても、あなたに対しても罪を犯しました。19 もう息子と呼ばれるに値しません。雇われ人の1人のようにしてください』』。20 そしてそこを出て父親のもとに向かいました。彼がまだ遠くにいる間に、父親は息子を見てかわいそうに思い、走っていって抱き締め(*首を抱き)、優しく口づけしました。21 息子は言いました。『お父さん、私は天に対しても、あなたに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれるに値しません』。22 しかし父親は奴隸たちに言いました。『さあ早く、長い服、一番良いのを出してきてこの子に着せ、指輪をはめ、サンダルを履かせなさい。23 それから、肥えた子牛を連れてきて調理し(*犠牲にしなさい。食べて祝いましょう。24 私のこの息子が死んでいたのに生き返ったのです。いなくなっていたのに見つかりました』。そして楽しいひとときが始まりました。25 上の息子は畑にいましたが、帰ってきて家に近づくと、音楽と踊りの音が聞こえました。26 召し使いを呼び、何事かと尋ねました。27 召し使いは言いました。『弟さんがお帰りになりました。無事に(*元気に)戻ってこられたので、お父さまは肥えた子牛を振る舞われたのです』。28 ところが彼は怒り、入ろうとしませんでした。すると父親が出てきて、中に入るよう促し始めました。29 上の息子は父親にこう答えました。『私はこれまで何年もあなたのために奴隸のように働いてきて、言い付けに背いたことは一度もありません。それなのに、友人と一緒に食べるための子ヤギさえ一度も下さったことがありません。30 ところが、娼婦たちと一緒にあなたの資産を乱費したあのあなたの息子が戻るとすぐ、肥えた子牛を振る舞ったのです』。31 父親は言いました。『息子よ、おまえはいつも私といたし、私の物は全部おまえのものだ。32 でも、祝って喜ばずにはいられなかつた。おまえの弟が死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだ』）イエスは天にいた時、罪を犯して悔い改めたたくさんの人たちにお父さんエホバが思いやり深く接するのを見ていたに違いありません。イエスが語った心温まる例え話を読むと、エホバが本当に憐れみ深い方であることが分かり、安心できます。



イエスが話した、いなくなった息子の例え話。父親が家に戻ってきた息子の所に走っていき抱き締めている場面。

(11-12節を参照。)

13-14. ペテロは悔い改めについてどんなことを学びましたか。後に悔い改めについて、どんなことを教えましたか。

(挿絵も参照。)

13 ペテロは悔い改めと許しについて、イエスからたくさんのこと学びました。ペテロは何度も間違いましたが、イエスは進んで許しました。例えば、ある時ペテロはイエスのことを知らないと3度も言ってしまい、自分のしたことを後悔して打ちのめされました。(マタ 26:34, 35) イエスは言った。「はっきり言いますが、今夜、おんどりが鳴く前に、あなたは3度、私を知らないと言います」。

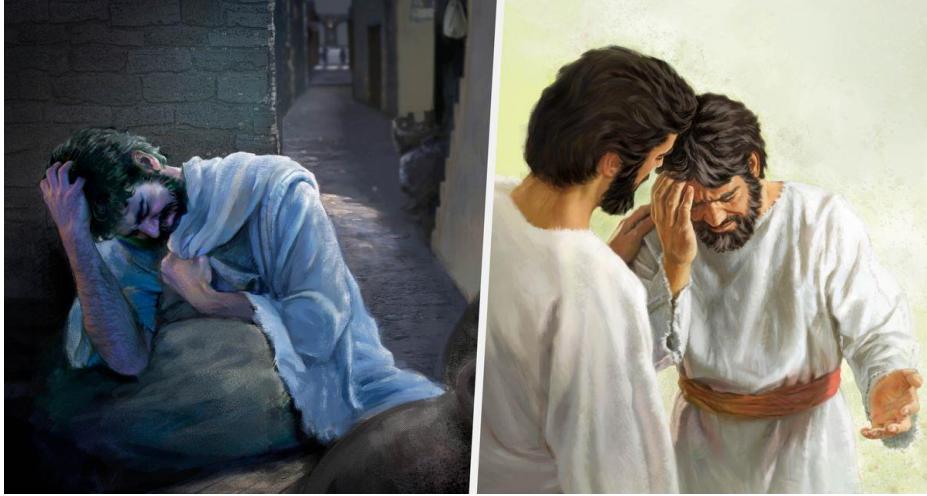
35 ペテロは言った。「たとえ一緒に死ぬことになるとしても、あなたを知らないとは決して言いません」。ほかの弟子も皆、同じことを言った、(69-75)さて、ペテロが外で中庭に座っていると、召し使いの女性がやって来て、「あなたも、ガリラヤ人のイエスと一緒にいました!」と言った。70 しかしペテロは皆の前でそれを否定し、「何のことを話しているのか、分からぬ」と言った。71 ペテロが門の方に出ていくと、別の女性が気付き、そこにいる人たちに、「この人はナザレ人のイエスと一緒にいました」と言った。72 ペテロは再びそれを否定し、「そんな人は知らない!」と誓って言った。73 しばらくして、周りに立っていた人たちが寄ってきて、ペテロに言った。「確かにあなたも彼らの仲間だ。なまりではっきり分かる」。74 その時ペテロは、「そんな人は知らない!」と言い、うそなら神罰を受けてもいいと誓い始めた。するとすぐに、おんどりが鳴いた。75 ペテロは、「おんどりが鳴く前に、あなたは3度、私を知らないと言います」とイエスから言われたことを思い出した。そして、外に出て激しく泣いた)でもイエスは復活した後、ペテロが恐らく独りでいた時に会いに行きました。(ルカ 24:33,

34)人はすぐさま立ち上がってエルサレムに戻った。11人と他の人たちが集まっていた、34「主は本当に生き返って、シモンの前に現れたのだ!」と言っていた。コリー 15:3-5 私が皆さんに伝えた最も大切な点の中に、私自身も学んだ事柄があります。それは、聖書にある通りキリストが私たちの罪のために死んでくださり、4そして葬られ、聖書にある通り3日目に生き返らされ、5ケファ(c*ペテロとも呼ばれる)の前に現れ、それから12人の前に現れたことです)その時イエスは、自分のしたことを後悔しているペテロを優しく許し、安心させたことでしょう。(マルコ 16:7)さあ、行って、弟子たちとペテロに言いなさい。『イエスは先にガリラヤに行っています。彼が言った通り、そこで会えます』と注釈「とペテロ」の項目を参照天使が特にペテロの名前を挙げたここまで記している福音書筆者はマルコだけ。(並行記述のマタ 28:7と比較。)ヨハ 20:2は、マリア・マグダレネが「シモン・ペテロ、および……もう1人の弟子」ヨハネに知らせに行ったことを述べている。イエスは、弟子たちが集まっている所に現れる前に、独りでいるペテロの前に現れたようだ。(ルカ 24:34。コ一 15:5)このように①個人的な気遣いを示され、さらに②天使がペテロの名前を特に述べたことによって、ペテロは、友であるイエスとの関係を3度否定したことを許されたと確信したに違いない。(マタ 26:73-75)。)

14 このような経験をしたペテロは、後に悔い改めと許しについてほかの人にも教えることができました。ペンテコステの少し後、ペテロはユダヤ人がメシアを死に追いやったことを群衆に対して話しました。でも次のように温かく勧めました。「罪を消し去っていただくために、悔い改めて生き方を変えなさい。そうすれば、爽やかにする時期がエホバから来[ます]」。(使徒 3:14,

15) そうです、その聖なる正しい方を認めず、殺人をした男の釈放を求める、15こうして、命へと導く方を殺しました。しかし神はイエスを生き返らせました。私たちはそのことの証人です、17さて兄弟たち、私はあなた方が、支配者たちと同じように、よく知らずに行動したこと知っています、19ですから、罪を消し去っていただくために、悔い改めて生き方を変えなさい。そうすれば、爽やかにする時期がエホバから来て、)ペテロは悔い改めが生き方を変えることにつながると言いました。これは、間違った考え方や行動をやめ、神に喜ばれる新しい生き方をするということです。また、ペテロはエホバが罪を完全に許し、罪を消し去つ

てくださる方であるとも言いました。数十年後、ペテロは確信を込めてクリスチヤンに次のように言いました。「エホバは……一人も滅ぼされることなく、全ての人が悔い改めることを望んでいるので、皆さんことを辛抱しているのです」。（[ペテ二 3:9](#) エホバ(*)は約束を果たすのが遅いと考える人もいますが、そうではありません。神は、一人も滅ぼされることなく、全ての人が悔い改めることを望んでいるので、皆さんことを辛抱しているのです）悔い改めるなら、たとえ重大な罪であったとしてもエホバは許してくださいます。エホバの優しさに本当に心が温まります。



イエスは、自分のしたことを後悔しているペテロを優しく許し、安心させた。（13-14節を参照。）

15-16. (ア) パウロは許しについてどんなことを学びましたか。（[テモテ第一 1:12-15](#)）(イ) 次の記事では何を考えますか。

15 タルソスのサウロほど悔い改めと許しを必要としていた人はいなかつたでしょう。サウロはキリストの弟子たちを激しく迫害していました。クリスチヤンのほとんどは、サウロのことを悔い改める見込みがない人と見ていましたかもしません。でも、復活したイエスはそれとは全く違った見方をしていました。エホバとイエスはサウロの良いところに注目していたのです。イエスは、「この人は私が選んだ器である」と言いました。（[使徒 9:15](#) しかし主は言った。「行きなさい。この人は私が選んだ器(*道具)であり、異国の人々に、また王たちやイスラエルの民に私の名を知らせるからです）また、サウロが悔い改めができるように奇跡を行うことまでしました。（[使徒 7:58-8:3](#) そして町の外に追い出した後、石打ちにし始めた。ステファノを訴えた証人たちは外衣をサウロという若者の足元に置いた。59 そして石を投げ続けた。ステファノは、「主イエス、私の命を受け取ってください」と訴えた。60 それからひざまずき、強い声で、「エホバ、この罪を彼らに負わせないでください」と叫んだ。そう言ってから、死の眠りに就いた。8 サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。その日、エルサレムの会衆に対して激しい迫害が始まった。使徒たち以外は全員、ユダヤとサマリアの全域に散らされた。2 しかし、神を畏れる人たちはステファノを運んで葬り、彼の死をひどく嘆き悲しんだ。3 一方サウロは、会衆に手荒なことをするようになった。次々と家に侵入しては男性も女性も引きずり出し、牢屋に送った；[9:1-9](#) サウロは、なおも主イエスの弟子たちを脅し、殺そうと意気込んで、大祭司の所に行き、2 ダマスカスにある会堂への手紙を求めた。この道に従う人を見つけたら、男性も女性も縛ってエルサレムに連れてくるためだった。3 サウロが旅をしてダマスカスに近づいた時、突然、天からの光が彼の周りを照らし、4 サウロは地面に倒れ、「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害しているのですか」と言う声を聞いた。5 サウロが、「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「イエスです。あなたは私を迫害しています。6 起きて町に入りなさい。そうすれば、何をすべきか告げられます」。7 一緒に旅をしていた人たちは、声の響きは聞こえたが誰も見えず、何も言えずに立っていた。8 サウロは地面から起き上がった。目は開いているのに何も見えなかった。それで手を引いてもらってダマスカスに入った。9 そして3日間、何も見えず、食べることも飲むこともしなかった、[17-20](#) そこでアナニアは行ってその家に入り、サウロに手を置いてこう言った。「サウロ、兄弟、道中

あなたに現れた主イエスが私を遣わしました。あなたが視力を取り戻し、聖なる力に満たされるためです」。 18 するとすぐに、目からうろこのような物が落ち、サウロは視力を取り戻した。そして、立ち上がってバプテスマを受け、 19 食事をして元気になった。サウロは何日かダマスカスの弟子たちと一緒にいて、 20 すぐに会堂でイエスについて、この方こそ神の子だと伝え始めた) サウロはクリスチャンになり、後に使徒パウロとして知られるようになりました。そして、自分が受けた親切や憐れみに対する感謝を何度も言い表しました。 (テモテ第一 1:12-15 私は、力を授けてくださった主であるキリスト・イエスに感謝しています。私を忠実な者と見なし、奉仕する務めを与えてくださったからです。 13 以前は神を冒瀆し、神の民を迫害し、横柄だった私が、憐れみを示されました。当時は信仰がなく、よく知らずに行動していたからです。 14 私たちの主は惜しみない親切をあふれるほど豊かに示してください、私が信仰とキリスト・イエスからの愛を得られるようにしてくださいました。 15 キリスト・イエスは罪人を救うために世に来た、という言葉は真実であり、全面的に受け入れるべきものです。私はそのような罪人の中でも最も罪深い者ですを読む。) パウロは、「神[は]ご親切にも悔い改めに導こうとしてくださっている」と教えました。 (ロマ 2:4 それともあなたは、神がご親切にも悔い改めに導こうとしてくださっていることを知らず、神の豊かな親切と寛容と辛抱を軽く見ているのですか)

16 ある時パウロは、コリントのクリスチャン会衆で性的不道徳に関する重大な問題が起きていることを聞きます。パウロはこの問題をどのように扱ったでしょうか。パウロが人々を助けた方法から、エホバが愛の気持ちで矯正を与えていることや、憐れみを示すことの大切さについて学べます。次の記事ではその点を詳しく考えます。

どんなことを学びましたか

1. エホバはイスラエル人に悔い改めについてどんなことを教えましたか。

- ・S04 イスラエル人がほかの神々を崇拜したりしてエホバに反逆するなら、エホバに守ってもらうことはできず、苦しむことになりました。でも、たとえそうなったとしても、エホバの好意を再び得ることは可能だった。つまり、悔い改めるチャンスがあった。悔い改めるなら、もう一度エホバとの絆を強め、守ってもらうことができた。
- ・S05 エホバに選ばれたイスラエル国民は、何度もエホバに反逆、偶像崇拜だけでなく、とても悪いことをいろいろ行いつらい経験をした。それでも、エホバは不従順なご自分の民を見捨てず、何度も預言者を遣わし、悔い改めてご自分のもとに戻ってくるよう勧めた。
- ・S06 エホバは預言者たちによって警告を与え、イスラエル人を正そうとした。エホバは人にいつも生き続けてほしいと願っていたので、人々が自分の罪を悔い改めるのを見る時本当に喜ばれた。
- ・S07 預言者ホセアの妻ゴメルは姦淫という重大な罪を犯していたが、エホバはホセアに、ゴメルのもとに行って許し、和解するようにと言って、悔い改めるよう助けたいと思っていることを、この実例を使って教えた。同様にエホバは強情だった民のことを諒めめず、エホバは民を愛し、悔い改めて生き方を変えるよう引き続き救いの手を差し伸べた。

2. エホバは罪を犯した人が悔い改められるようどのように助けてきましたか。

- ・S08 エホバがカインとその捧げ物を好意的には見なかつたとき、カインは激しく怒り、ふさぎ込んでしまつたが、エホバはご自分の方からカインに優しく声を掛け、善いことを行うならどうなるかを考えさせ、怒りが罪につながることについて警告を与えた。

・S09 エホバは深く愛していたダビデが姦淫や殺人など非常に重い罪を犯した時、まだダビデに悔い改めている様子が全く見られなかつたが、ダビデが悔い改めることができるように預言者ナタンを遣わし例え話を伝えさせた。ダビデは心を動かされて心から悔い改めたため、重い罪を許された。

・S10 エホバは罪を憎んでいて、どんな罪も大目に見ることはないが、私たちを愛しているので、どんなに重い罪を犯した人に対しても、悔い改めてご自分との絆を持てるよう助けたいといつも思っている。エホバが辛抱強く許してくださることについて思い巡らすと「①これからもエホバに忠実に仕えたい、②罪を犯したならすぐに悔い改めるようにしたい」と感じる。

3. イエスの弟子たちは悔い改めについてどんなことを学びましたか。

・S11 エホバはバプテスマを施す人ヨハネやイエスを通して、悔い改めることの大切さを人々に教えました。（「悔い改めなさい。天の王国は近づいたからです」）

・S12 イエスは宣教期間中ずっと、天のお父さんエホバが進んで許してくださる方であることを教え、そのことを際立たせるため、いなくなっていた息子の例え話をした。イエスは天にいた時、罪を犯して悔い改めたたくさんの人たちにお父さんエホバが思いやり深く接するのを見ていたに違いない。この心温まる例え話を読むと、エホバが本当に憐れみ深い方であることが分かる。

・S13-14 ペテロはイエスが亡くなる前にイエスの弟子であることを3度も否定する重大な失敗をした。でもイエスは復活した後、ペテロが恐らく独りでいた時に会いに行き、後悔しているペテロを優しく許し、安心させたと思われる。このような経験をしたペテロは、後に悔い改めと許しについてほかの人にも「罪を消し去っていただくために、悔い改め、神に喜ばれる新しい生き方をするように」教えることができた。また数十年後、「エホバは…一人も滅ぼされことなく、全ての人が悔い改めることを望んでいるので、皆さんのことを辛抱している」と述べ、悔い改めるなら、たとえ重大な罪であったとしてもエホバは許してくださることを強調した。

・S15 キリストの弟子たちを激しく迫害していたタルソスのサウロほど悔い改めと許しを必要としていた人はいなかつたが、イエスはサウロが悔い改めができるように奇跡を行うことまでした。クリスチャンになった後のパウロは、自分が受けた親切や憐れみに対する感謝を何度も言い表した。

33番の歌 エホバに重荷を委ねる

△これは特殊な事例です。現代、エホバは夫婦のどちらかが姦淫をした場合、婚姻関係を続けることを潔白な側に求めてはいません。エホバの導きを受けてイエスは、潔白な側が望むなら離婚できると説明しました。（マタ 5:32; 19:9）

△「ものの塔」2012年11月15日号の「エホバの許しはあなたにとって何を意味しますか」という記事の21-23ページ3-10節を参照。

△（ペテ二3:9）エホバ*は約束を果たすのが遅いと考える人もいますが、そうではありません。神は、一人も滅ぼされることなく、全ての人が悔い改めることを望んでいるので、皆さんのことを見守っているのです。

付録 A5 参照。